

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 46 号:2017 年 5 月－6 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

世界銀行が2017年のウズベキスタンのGDP成長率予測を7.6%に上方修正

当初、世銀はGDP成長率を7.4%と予測していた。2018年と2019年の成長率はそれぞれ7.7%（当初予測では7.4%）と7.8%（同7.4%）に加速するものと予測されている。同行は、中央アジア諸国との協力拡大により経済成長の加速が促進されるとの見解を示している。

2017年第1四半期のロシアからウズベキスタンへの送金額は前年同期比50.79%増

2017年1～3月期のロシアからウズベキスタンへの送金額は、前年同期に比べて1億9,200万ドル多い5億7,000万ドルであった。ロシアからの四半期毎の送金額が前年同期に比べて増加するのは4年ぶりである。2013年第1四半期の送金額は10億3,600万ドル、2014年同期は9億2,400万ドル、2015年同期は4億6,600万ドル、2016年同期は3億7,800万ドルであった。一方、ウズベキスタンからロシアへの送金額は、2016年第1四半期は8,200万ドルであったが、2017年同期には6,800万ドルに減少した。

貿易

個人事業主に対して外貨収入の強制売却を免除

政府決定「個人事業主が生産する製品の輸出拡大を目的とする、一部のウズベキスタン共和国政府決定の変更と追加について」が公布された。同決定によると、個人事業主は外貨収入の強制売却を免除される。農産品、野生植物、銅および銅製品、天然ガス（トランジット輸送を含む）を輸出する個人事業主については、この優遇措置は適用されない。

ミルジヨエフ大統領は、1月の政府総括会議において、2017年のウズベキスタンの輸出額を108億ドルにしなければならないと述べた。同大統領によると、2016年の輸出額は当初予測より15億4,000万ドル少なかった。

二国間関係

ウズベキスタンと中国が一連の文書に調印、両国関係の新段階のスタートを宣言

2017年5月、ミルジヨエフ大統領が中国を訪問し、総額約230億ドルの協定が締結された。技術協力、国際自動車交通網、教育、医療、獣医学、農業の各分野における協力、小規模企業活動の促進、電力、エネルギー効率、繊維産業、製薬などの分野における合計100件以上の国家間、政府間および省庁間の文書が交わされた。

たとえば、ウズベクネフチェガスと中国国家開発銀行は「シュルタン・ガス化学コンプレックスの精製メタンをベースとする合成液体燃料生産」プロジェクトにかかる12億ドルの協調融資に関する協定および石油・ガス部門の投資プロジェクトにかかる10億ドルの協調融資に関する枠組み協定を締結した。石油・ガス部門では、総額50億ドルの文書10件が交わされた。

さらに、2020年までにウズベキスタンから中国への天然ガスの輸出を100億m³に拡大する旨の合意も交わされた。中国税関の統計データによると、2016年のウズベキスタンから中国へのガス輸出量は273万tであった。

水力発電分野では、ウズベキスタンの299のポンプステーションを近代化し、省エネと安定的な水供給を可能にするため、約30億ドルの融資誘致に関する協定が締結された。

ウズベキスタン・トルコ貿易経済協力政府間委員会第4回会合とビジネスフォーラムにおいて両国企業が総額20億ドル以上の協定を締結

上記は、観光、繊維、電気工学、製薬、建設および銀行の各分野におけるプロジェクトの実施に関する文書である。2016年の両国間の貿易高は約12億ドルで、このうち約7億900万ドルがウズベキスタンからトルコへの輸出であった。2017年には貿易高を14億ドルに拡大する計画である。2017年2月26日～3月2日にウズベクインヴェストのアジモフ社長（元副首相）率いるウズベキスタン代表団がトルコを訪問した際には、総額10億ドル以上の二国間協定および契約が締結された。

投資・金融セクター

大手銀行の資本における国の出資を5億ドル増額

各商業銀行の定款資本における国の出資比率を増やすため、ウズベキスタン復興開発基金が資金を拠出するとともに、流動性不足の場合には3カ月間の融資が供与される。ミルジヨエフ大統領がこのような決定に署名した。この決定は、銀行システムの財務安定性の拡大、商業銀行の時価総額の維持、そして投資プロジェクトや企業活動に対する融資への各行の参加の拡大のために下された。

また、中央銀行から担保なしの融資を受けた後も顧客に円滑な現金引き出しを保証しない商業銀行については、中央銀行が管財人となる権限を得ることになった。

2016年の各商業銀行の自己資本は総額9兆3,500億スムであった。銀行システムの自己資本比率はバーゼル銀行監督委員会が定めた国際基準の3倍、流動性は最も高い指標評価の2倍であった。同年の各行の預金総額は前年比25.2%増の44兆6,000億スムに達した。2017年1月1日時点の各行の資産は総額80兆4,000億スム超に達した。

エネルギー・セクター

石油・ガス部門の発展のため、ウズベキスタンは2021年までに304億ドルを投資

上記は、国際見本市「Global Oil & Gas Uzbekistan-2017」においてウズベクネフチェガスが配布した資料に記載されていた情報である。炭化水素資源の得率向上に基づく2020年までの輸出製品生産拡大プログラムには、石油・ガス部門の製造施設の近代化および技術更新のプロジェクト74件が含まれている。これらのプロジェクトの実施により、ポリ塩化ビニル、ABS樹脂、合成ゴム、芳香族炭化水素、高吸収性製品の製造など15種類の新製品開発が見込まれている。

2022年までにウズベキスタンの天然ガス生産量は合計535億 m^3 、ガスコンデンセートは110万t、石油は190万t増加する。この数字は、投資総額39億ドルの2017～2021年の炭化水素資源増産プログラムにおいて掲げられているものである。これによると、2017年の天然ガス生産量は前年より13億 m^3 増加する見込みである。

ウズベクネフチェガスとトルクメンネビト（トルクメンネフチ）がカスピ海大陸棚鉱床を共同開発

2017年5月20日、両社は上記に関するMOUを締結した。これは、ウズベクネフチェガスにとって初の国外事業である。共同石油生産により、ウズベキスタンの製油所の原料が確保される。また、トルクメニスタンのキャンルィ鉱床および中国のCNPCと共同開発しているその他の鉱床で生産された軽質原油がブハラ製油所に供給される予定である。

さらに、ウズベクネフチェガスはアゼルバイジャンのSOCARとも協定を締結したが、これもカスピ海大陸棚プロジェクトへの参加の可能性の拡大を目指すものである。アゼルバイジャン側は、大陸棚事業のため、ウズベクネフチェガスの人材育成に協力する予定である。

中国CNPCがブハラ州の大規模ガスコンデンセート鉱床3カ所でガス生産を開始

これらの鉱床では、年間10億 m^3 以上のガスが生産される見込みである。これに先立ち、ウズベキスタンと中国の合弁企業New Silk Road Oil & Gas Company Ltdが2017年中

にカラクル投資区（ブハラ州）の各鉱床でインフラ整備とガス生産を開始すると伝えられていた。ウズベキスタン政府は、デンギズクル、ホジャダヴレト、シャルキー・アラトの各ガスコンデンセート鉱床のホジャサヤト鉱区のインフラ整備にかかる3億7,750万ドルのF/Sを承認した。インフラ整備の請負業者は、CNPCの子会社のChina Petroleum Engineering & Construction Corporation（CPECC）に決定した。

ガスプロムとウズベクネフチェガスが戦略的協力協定を締結

この協定はサンクトペテルブルグ国際経済フォーラムにおいて締結され、ウズベキスタンにおける新規プロジェクトの実施にかかる両社の連携に関する文書である。具体的には、ガスインフラ設備の改修、建設および操業、炭化水素資源の地質探査、生産、精製および貯蔵、ガス化における圧縮天然ガス（CNG）と液化天然ガス（LNG）の利用、国内ガス供給総合スキーム開発といったプロジェクトが想定されている。

ウズベクエネルギーの水力発電会社を分社化

2017年5月18日付大統領令により、水力発電会社ウズベクギドロエネルギーが創設された。同社は、ウズベクエネルギーおよび農業・水利省下のウズスヴェエネルギーの水力発電所、水力発電技術、その他の関連部門をベースとして設立された。設立当初の定款資本は、各水力発電所における国の出資およびギドロプロジェクト、ギドロスペツストロイ、ウズベクギドロエネルギークリシ、スヴサノアトマシの各社の定款資本における国有株の額面に応じた譲渡により形成される。

ウズベキスタンは2026年までに水力発電部門に10億ドルの融資を誘致する計画

水力発電発展プログラムによると、18の水力発電所の建設および14の水力発電所の近代化が計画されており、費用は総額26億5,000万ドルである。同プログラムの事業費については、ウズベキスタンが16億4,000万ドルを拠出し、国際・外国金融機関から10億900万ドルの融資を受ける予定である。具体的には、中国輸出入銀行から5億7,280万ドル、イスラム開発銀行から1億8,110万ドル、アジアインフラ投資銀行から7,730万ドル、アジア開発銀行から9,840万ドルの融資を受ける計画である。2026年までにウズベキスタンの水力発電出力は現在の1.7倍の3,038MWとなり、発電力全体に占める水力発電の割合も現在の12.7%から15.8%に拡大する見込みである。

自動車・機械工業セクター

ウズアフトサノアトとグループPSAがウズベキスタンにおける小型商用車生産のため合併企業設立協定を締結

合弁企業Uzbekistan Peugeot Citroën Automotiveは、タシケントから200kmの場所に位置する自由経済区「ジザク」に工場を建設する。この工場は、プジョーおよびシトロエン・ブランドの旅客・貨物輸送用小型商用車の生産に特化する。合弁企業は同等の出資比率で設立され、定款資本は3,000万ユーロである。事業費は総額約1億3,000万ユーロである。工場の生産能力は年間1万6,000台で、ウズベキスタン国内で販売されるほか、CIS域内外に輸出される予定である。計画によると、現地調達率は生産開始1年目から50%以上に達する見込みである。

カザフスタンでRavon Nexia R3の生産開始

GM UzbekistanとカザフスタンのAllurGroupは、コスタナイ市の自動車工場サルィアルカアフトプロムにおいてRavon Nexia R3の組立を開始した。Ravon Nexia R3の製造は同工場の既存の設備において行われる。協力の次の段階では、製造される自動車のラインナップが拡大される可能性もある。カザフスタンにおけるRavonの正規ディーラーであるウズアフト・アジアが、AllurAutoの店舗を含む既存の販売網を通じて製造される自動車の販売を行う。カザフスタンにおける現地生産の開始により、優遇融資プログラムで製品を購入することが可能になる。2017年1～4月、Ravon Nexia R3はカザフスタン市場で販売台数1位となった。

2021年までのウズベキスタン自動車産業発展プログラムを採択

このプログラムによると、5年後には、ウズベキスタンの自動車生産量が現在の3倍となり、生産量に対する輸入部品の比率は12.5%に縮小し、自動車部門の企業の被雇用者数は1.2倍になる。そのため、総額8億ドル以上の一連の新規投資プロジェクトが計画されている。ミルジヨエフ大統領が、「厳しい競争条件および外貨政策の自由化の下で自動車部門の持続的発展を可能にする」ための措置を講じるよう指示したことに留意しなければならない。また、2017年6月1日以降、GM Uzbekistan製自動車の物品税率が29%から27%に引き下げられた。

その他のセクター

ウズベキスタンは外国企業に金鉱床12カ所の開発を許可

この金鉱床のリストには、すなわちタシケント州、サマルカンド州、ナヴォイ州、カラカルパクスタン共和国の4地域の鉱床が含まれている。これらの鉱床の金埋蔵量は合計14.5 tである。このうち最大の鉱床はガラブラク鉱床（サマルカンド州）とジャマンサイ鉱床（カラカルパクスタン共和国）である。金鉱床のリストは、最近の地質探査作業により得られた新たな地質情報を考慮した上で、5年以内に定期的に更新さ

れる。外国投資家に対しては、ウラン鉱床 3 カ所、タングステン鉱床 8 カ所、鉄鉱床
およびリチウム鉱床数カ所の開発への参加についても提案されている。